

21

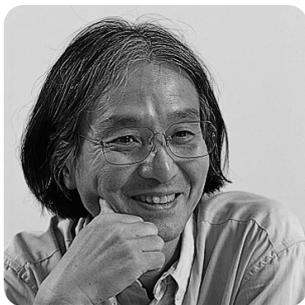
Japanese Academy of Social Design Studies for 21st Century

vol. 1

21世紀社会デザイン研究学会ニュース

21世紀社会デザイン研究学会ニュース第1号
2006年11月8日発行
■発行者 北山晴一
■発行所 21世紀社会デザイン研究学会

■連絡先 〒171-8501東京都豊島区西池袋3-34-1
立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科委員長室 気付 21世紀社会デザイン研究学会事務局
E-mail: z3000227@grp.rikkyo.ne.jp FAX: 03-3985-2181 URL: <http://www.rikkyo.ne.jp/kitagumi/gakkai/gakkai.htm>
■デザイン 増田幸右 ■印刷 株式会社



第1回年次大会開催によせて

21世紀社会デザイン研究学会
会長 北山晴一
(立教大学教授)

さまざまに異なる、ときには対立するかもしれない多様な考えや立場を、いかに市民社会創成の酵母としていくか。そのためには、議論が大学の枠を超えて広く社会の各界、各分野の人々へと広がっていき、意見交換の量も質も高まり、研究が持続的に組織される場が必要ではないか。このような考えから、21世紀社会デザイン研究学会の設立をみなさんに呼びかけました。

しかし、21世紀社会のグランドデザインを描くことは、ことばでいうほど容易ではありません。学会設立の目的は、学会活動を通じて多様な知が統合され、多くの研究者や実務家が参加し、社会デザインという新しい学問分野において、世界に開かれた幅広い知のネットワークの形成に貢献することにあります。私たちのネットワークが広がっていくためには、いくつかの関門があります。

関門のひとつは、私たちの学会設立の趣旨が誤解されないようにすることです。21世紀社会デザイン研究学会がとりあえず扱いたいと考える関係分野は、コミュニティデザイン分野、CSR分野、国際協力・平和構築・共生学分野、非営利活動分野、危機管理分野、都市防災分野、文化・芸術組織分野の7分野ですが、私たちの学会の目的は、すでに各分野で活発な活動を展開する先行学会の傍らにミニ学会組織を並置することではありません。そうではなくて、すでに設立総会時に述べさせていただいたように、これまで各分野で形成されつつある膨大な知的蓄積を領域横断的な知のネットワークに編みこんでいくためのノットあるいはハブの役割を果たすことにあります。多様な知をひとつに結んで、いかに21世紀の新しい社会をデザインしていくか。これが学会の使命であり、課題であるということ、広く理解してもらう必要があると思います。

最初は欠陥だらけであった私のアイデアに直ちに賛同していただき、その後呼びかけ人代表として趣旨をまとめてくださった福原義春氏(学会顧問)の言葉を引けば、21世紀社会の特徴は、そのフラット性にあります。これまでのピラミッド型社会組織が通用しないということです。ここにもネットワークの重要性が浮かび上がってくる理由があります。このことは、別の面から見れば、「民が公を担う、天動説から地動説ほどの大きな転換が可能になった」ということにもなります。この転換を好機と捉え、これからの社会をいかに考えていくか。福原さんの言葉を再度借りれば、「学会の皆さんの力で世の中が変わってくる」のです。

幸い、学会は多くの方々の賛同を受けて出発しました。12月3日(日)には、第1回大会を開催する予定です。今回は、分科会&パネル討議の形になりますが、2007年度の第2回大会からは、会員のみなさんの研究発表を中心とした相互研鑽の場をしたいと考えます。その際には、ふるって応募のほどお願いいたします。

21世紀社会デザイン研究学会へ期待すること

浅野史郎

(日本フィランソロピー協会会長)

プロフィール

東京大学法学部卒業、米国イリノイ大学政治学大学院修士（行政学）

現職：宮城県社会福祉協議会会長、慶應大学総合政策学部教授、東北大学客員教授、日本フィランソロピー協会会長、地域創造ネットワークジャパン代表。

大量生産、大量消費、大量廃棄型の豊かさからの脱皮。豊かさとは、流行、スピード、大量とは無縁の価値である。これが21世紀型の豊かな生活であろう。価値観を共有する人的ネットワークの構築も不可欠。結局のところコミュニティづくりである。「雑居の思想」も大事。つまるところ、コミュニティは雑居そのものだから。いろいろな人がいる。さまざまな役割を持っている。これを生かし合うこと。そのためのデザインは必要である。研究学会にそのデザインづくりを期待する。



石川治江

(社会福祉法人にんじんの会理事長)

プロフィール

外資系組織を退職後、居酒屋、喫茶店、手紡ぎ工房などの経営をしながら、障がいを持った人たちと「駅にエレベーター設置」の運動を始める。日本で初の24時間365日の在宅ケアの実践。ISO9001の取得などの活動を行なう。現在、NPO法人ケア・センターやわらぎ代表理事、社会福祉法人にんじんの会理事長。

私がかねてから「デザイン之力」「デザインが持つ機能」について考えていた。周知のように、幾重にも重なりあった問題に対して有効な解決方法を見出せずにいる現状や、ハード、ソフトにかかわる諸制度などはすでに限界にきている。

「社会デザイン」はそれぞれの分野が新しい融合や反発をしながら新しいパラダイムを構築する、すなわち、「デザイン機能」あるいは「デザイン行為」として立体的に捉え、解決技法や手法を多角的に議論し実践する場としての学会に期待する。



渡邊浩美

(NPO法人スペシャルオリンピックス日本勤務)

プロフィール

1995年より知的障害者スポーツ活動を支援するNPO、スペシャルオリンピックス日本に勤務し、現在、ファンドレイジングを担当。

社会をデザインする。1995年からNPOに従事している私は、市民が社会をデザインする現場に立ち会ってきたと自負していますが、学会の設立と社会デザインという理念の構築は、NPO活動の成熟とさらなる進化に寄与するものと期待しています。私自身は、まさに毎日がフィールドワークの場であることを活かし、行政主導であった福祉やスポーツの分野におけるNPO活動を検証し、NPOによる社会デザイン構築の実践的な研究に取り組み貢献したいと考えています。



第2回 理事会 常任理事会 報告

日時：2006年9月9日（土）14：06～16：20

場所：立教大学11号館A202教室

出席者（敬称略、順不同）

【常任理事】

上園俊樹、笠原清志、加藤 薫、川村仁志、北山晴一、後藤和子、出口正之、中村陽一

【理事】

伊藤道雄、小野豊和、菊野一雄、小林規男、齋藤哲男、佐取 朗、高橋紘士、町野弘明、
宮脇磊介、福田秀人

【事務局】

澤野次郎（副事務局長）、中村圭美（事務局員）

報告事項

- (1) 9月9日現在の入会者数210名（個人、団体含む）
- (2) 事務局・幹事会体制の報告（詳細は、p.4参照）
- (3) 大会プログラム委員会の報告

【委員会メンバー】

藤井敦史、石川治江、上園俊樹、加藤 薫、出口正之、五十嵐暁郎、吉村英子、北山晴一、
笠原清志、中村陽一、萩原なつ子。

- (4) 学会の渉外担当を町野理事に依頼

承認事項

- (1) 役員補充と会則変更の件

加藤雄男氏、藤井敦史氏の両氏については、設立総会前に理事候補として内諾を頂いていたが、理事会・常任理事会候補者名簿の作成ミスにより名前が漏れていた。従って、改めて両氏を理事として活動できるようにこの理事会・常任理事会にて承認した。これによって理事が2名加わるため、会則第7条の理事の定員を変更する必要がある。従って、現行の定員16～21名から16～25名に変更することをこの理事会・常任理事会で確認し、次回学会総会で諮る予定。

- (2) 出口正之常任理事慰留の件

出口正之常任理事・副会長から「政府税調委員という公的な立場があるため、非営利組織の役員に就くことを遠慮するようにしている」との理由で、辞意の表明があったが、出口氏の存在は本学会にとって不可欠のものであり、理事会・常任理事会としては引き続き常任理事・副会長の役職にあってご尽力願いたい旨お伝えし強く慰留した。本人もその慰留を受け入れ、常任理事・副会長に留任することになった。

タイムスケジュール

- ①大会のタイムスケジュールは下記の通り行なう。

【タイムスケジュール】

■09：30：受付開始

■10：00～12：10：分科会

（テーマ：CSR、コミュニティデザイン、国際協力・平和構築・共生学、危機管理及び、もう1つテーマを追加する予定）

発表：20分

コメント：10分

質疑応答：10分

休憩：5分

×3回（＝発表者3人分）

■13：00頃～16：00頃：午後の部 学会長挨拶（20分程度） パネルディスカッション

- ②大会参加費は下記の通り徴収する。

一般会員3,000円／人、院生・学生2,000円／人、会員外3,000円／人

- ③本年度の大会および分科会・パネルディスカッションの企画運営について、慎重審議の結果、会長から下記のようなまとめがあった。

a) 学会での分科会、とりわけ自由論題などの発表者は、本来、学会員に広くよびかけ公募することが通例であり、本学会もそれを原則としたい。

b) ただし、今年度に限っては、学会が設立したばかりで事務局体制が十分でないため上記の原則を適用することが困難であると判断し、以下のようなプロセスを採用したい。

- 1) 大会プログラム委員会（以下、「プログラム委」と言う）から提案のあった司会候補者とプログラム委が協議の上、テーマのコンセプトを固める。
- 2) 司会候補者を中心にパネリストの人選を決めてゆく。
- 3) この一連の作業は3週間以内で行う。

c) 分科会のテーマは、CSR、コミュニティデザイン、NGO・国際的な共生、危機管理（今年度は災害関連）の4分野を軸に検討する。会場の余裕がある場合は、もう1つ分野（たとえば「文化と経済」など）を追加する。

- d) 大会のテーマを選ぶ。

学会設立の趣旨、目的、研究活動領域などについて、社会に向けて明確に発信しうるメッセージ性のある大会テーマを決定し、会長のキーノートスピーチ（挨拶と問題提起）とそれに続けたパネル討議を企画する。具体的なテーマには、「21世紀社会デザイン学の確立を目指して」など

年次大会開催 お知らせ

の案が上がった。

e) 大会テーマ、分科会テーマおよびパネリストの人は、司会候補者とプログラム委が協議して企画案を作成し次回理事会・常任理事会に提案するが、最終的には会長に一任する。

(5) 2006年度予算が承認された。

(6) 次回、理事会・常任理事会の予定は11月11日(土)16時半。

年次大会開催

第1回 21世紀社会デザイン研究学会年次大会

統一テーマ「21世紀の社会デザインを考える」

開催日 2006年12月3日(日) 10時開演(受付開始9時30分)

会場 立教大学 池袋キャンパス(東京都豊島区西池袋3-34-1)

【午前の部】7号館2階、3階 【午後の部】太刀川記念館

大会参加費 一般会員3,000円、院生・学生2,000円、会員外3,000円

お問合せ先 21世紀社会デザイン研究学会事務局

FAX: 03-3985-2181

E-mail: z3000227@grp.rikkyo.ne.jp

URL: <http://www.rikkyo.ne.jp/~kitagumi/gakkai/gakkai.htm>

事務局・幹事会体制

当学会設立後、事務局と幹事会が発足しました。事務局は学会運営に関する全般的な業務を行い、幹事会は事務局業務や学会関連行事をサポートするために有志のメンバーから構成されています。今後、当学会の活動を発展させて行くために、事務局及び幹事会一同努力してまいります。よろしくお願いいたします。

【事務局】(敬称略)

事務局長 笠原清志、副事務局長 澤野次郎、事務局員 中村圭美

【幹事会】(順不同・敬称略)

幹事長 比留間和憲、副幹事長 荒井教康、幹事 五十嵐香織、澤野次郎、高田靖子、日高久美子、平田賢典、高宮知数、増田幸右、出口広子、石崎 貴、三島涼子

入会のお願い

本学会では、「コミュニティデザイン分野」「CSR(企業の社会的責任)分野」「非営利組織(NPO、NGO、ボランティア活動)分野」「危機管理分野」「国際協力・平和構築・共生学分野」「都市防災分野」「文化・芸術組織分野」等、21世紀社会において注目される分野における研究者、実務者、企業関係者等のさまざまな経験を持つ会員が連携、協働による研究活動の場を提供しています。本学会に入会されますとこうした多様な知的ネットワークの形成の場としての年次大会での研究発表及び討論、年2回発行されるニューズレターによる各種案内、報告、評論、事例紹介等の情報発信などが活用できます。また、会員相互の人的及び知的ネットワークをより一層充実させることができるというメリットもあります。この機会にぜひ本学会への入会をご検討くださるようお願いいたします。

年会費

法人会員 1口20,000円(2口以上)

個人会員 8,000円

大学院生会員 4,000円

学部生会員 3,000円

振込口座について

郵便振替口座番号: 00190-5-352518

加入者名: 21世紀社会デザイン研究学会

年会費未納の方へのお願い

入会申込みがお済の方で、年会費が未払いになっている方は、同封の振込用紙にてお振込みください。なお、大学生・大学院生会員の方は学生書のコピーをFAXまたは郵送にて事務局宛にお送りください。

異動・転居通知のお願い

住所や所属などに変更や異動が生じた場合には、必ず下記連絡先に郵便、FAXまたはEメールにてご連絡ください。

■連絡先

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科委員長室 気付

21世紀社会デザイン研究学会事務局

E-mail: z3000227@grp.rikkyo.ne.jp

FAX: 03-3985-2181

URL: <http://www.rikkyo.ne.jp/~kitagumi/gakkai/gakkai.htm>